

はひねす
フラワー

花育でガイド



国体・障スポ
2018 in 福井

福井しあわせ元気国体 2018

第73回 国民体育大会

織りなそう 力と技と美しさ

平成30年(2018年) 9月29日④～10月9日⑤

福井しあわせ元気大会 2018

第18回 全国障害者スポーツ大会

織りなそう 力と技と美しさ

平成30年(2018年) 10月13日④～10月15日⑤

栽培スケジュールについて

国体・障スポ時の開花に
合わせたスケジュール

一般的なスケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
両大会			播種	移植	定植	観賞期	
一般			播種	移植			定植

国体：9月29日から10月9日 障スポ：10月13日から10月15日

※育成期間は一例となります。
花の生育は栽培環境によって異なります。

※天候や栽培環境によりスケジュールは前後することがあります。

ふくど
覆土
はしゅ
播種
いしよく
移植
ていしよく
定植

土を被せること。

種をまくこと。

苗を植え替えること。

ポットなどで育成した苗を（プランターや花壇など）
最終的な栽培場所に植え替えること。

きりもど
切戻し

夏の暑さなどで弱った株や伸びすぎた株を短く切りそろえること。
脇から新芽が伸び、再び花を咲かせることができる。

はな
つ
花がら摘み

咲き終わった花の茎の付け根を摘むこと。結実させないようにして花つきが
悪くなるのを防ぐほかに、病気や害虫の発生を防ぐ目的がある。

できしん
摘芯

生長の盛んな先端の新芽の部分を摘み取り、脇芽の発生を促進すること。
ボリュームのある姿に仕立てるために行う。

登場する
主な用語



平成 29 年 4 月発行

編集・発行

「福井しあわせ元気」国体・障害者スポーツ大会実行委員会

福井県国体推進局大会推進課広報・県民運動グループ

（住所：〒910-8580 福井県福井市大手3丁目 17-1）

TEL：0776-20-0769 FAX：0776-20-0664

HP：http://fukui2018.pref.fukui.lg.jp/

はびねすフラワーの栽培方法

1. 種まき(播種)

①平箱やセルトレイに「種まき専用培土」を敷き詰め、平らにならします。セルトレイを使うと、移植時に根を傷めず、活着がよくなります。

【平箱の場合】

用土にすじ(溝)をつけ、それに沿って重なり合わないよう種を落とし、覆土します。

【セルトレイの場合】

1穴に1粒ずつ種を丁寧に播き品種の発芽特性にあわせ覆土します。ペゴニアやペチュニアなど非常に小さい種は紙と竹くし等を使い、セルに種を転がしながら落としていくとよいでしょう。

品目によって発芽適温が違います。また、光を好む種子、好まない種子がありますので花の種類を確認しましょう。

② 種まき後は、発芽するまでは風通しの良いなるべく涼しいところで管理しましょう。土の表面が薄茶色になっていたら土が乾いているサインです。水やりは種が流れないように底面給水させたり、目の細かいジョウロを使用しましょう。非常に小さい種でしたら霧吹き等を使用するとよいでしょう。



2. 苗の植え替え(移植)

①用土を準備して、あらかじめポットに土を詰めます。土が乾いていれば、植え込み(鉢上げ)前日までに水をたっぷり与えておきます。ポットを上から軽く落とし土の量が約8分目までになるようにするとよいでしょう。

②育苗箱から苗を取り出し、ポットに一つひとつ植え込みます。苗は根鉢を崩さない

ように抜き取りましょう。ポットの中央の土に指で穴を開け、差し込むような感じでやさしく植えつけます。株元がぐらつかないように軽くおさえて固定した後、たっぷりと水を与えておきます。植え付けはポットの土の表面と苗の土の表面が同じくらいになるようにします。



③植え込み後は土の表面が乾いたらたっぷりと水を与えます。植えた苗とポットの土がなじむように、水をやさしく与えます。植え込み後1週間程度は、植え傷みを和らげるため、一日中日差しが当たる場所は避けてください。

3. 定植

①用土を準備して、プランターに土を詰めます。排水性を高めるために、プランターの底にスノコやパーライトなどを敷くとよいでしょう。プランター容器の4割程度まで土を入れ、平らになるようにしておきます。土が乾いているようでしたら、水を与えて湿らせておきましょう。

②ポットから苗を取り、プランターに苗をバランスよく植えます。ポット苗の土の表面がプランターの鉢口の上から2~3cm程度低くなるように高さを調節しながら、苗の株元の周りに土を入れます。最後に軽くおさえて固定します。植え付けが終わったらたっぷりと水を与えます。



4. 管理

①置き場所

酷暑対策として建物の東側など西日が当たらない、出来るだけ涼しい場所で管理します。特に真夏は直射日光が当たらないように注意しましょう。

②水やり

土の表面が乾いたら、プランターの底からしみだすまで水をたっぷり与えます。真夏などは日中の水やりは避け、午前中に与えるようにしましょう。

③肥料

液肥などの肥料は定植後、2~3週間程度空けてから、与えるようにします。株の根元に向かってゆっくり与えるようにしましょう。

④手入れ

花を長期間咲かせるために咲き終わった花を摘み取りましょう。萎んだ花は残しておくとも種子が作られるために養分がとられたり、病気のもとになったりします。

⑤切戻し

草丈が伸び続けると、花が咲きにくくなったり、草姿が乱れ、見栄えが悪くなったりします。そこで好みの高さで、葉や芽を残すよう切戻しを行います。また夏場の高温多湿に耐えられるように風通しを良くする意味でも重要な作業になります。



キク

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月

国体：9月29日から10月9日 障スポ：10月13日から10月15日

国体・障スポ／一般

1年目（小菊の場合）

定植

摘心

開花

2年目以降

出芽

摘心

開花

※摘心や切り戻しで開花時期や花数は変わります。春に出芽したら、6月下旬～7月中旬までに摘心を数回します。
※育成期間は一例となります。花の生育は栽培環境によって異なります。

特徴

花の大きさ、形などが様々な種類があり、花の大きさで、大菊、中菊、小菊に分けられる。

奥越地域を中心に、福井県内で一番多く生産されている花である。皇室の紋章としても用いられ、桜と並んで国花になっている。

播種

キクは種から育てるのは難しく、苗から育てるのが一般的です。種から育てる場合、種が非常に小さいので風で飛ばされないよう、覆土はうっすらと種が隠れる程度にします。発芽適温は15～20℃前後となります。



種子

移植

3～4枚の時期を目安に、ポットなどに丁寧に移します。

定植

適した土壌：有機質に富み、水はけがよく
保水性のある弱酸性の土壌
ポットに十分根が回ったら、植え付けします。
花壇植えの場合、株間は30cm程度が目安です。

管理

日当たりの良い場所を好みます。
キクは肥料がたっぷりと必要ですので、定期的にしっかり与えましょう。生育期には窒素が多い肥料、開花期にはリン酸の多い肥料を与えバランスよく使用しましょう。
水やりは表土が乾いたらたっぷりとあげましょう。日光を好みますので真夏以外は日当たりで管理し、真夏は半日陰で管理しましょう。



原産地 — 中国

科名 — キク科

花言葉 — 高貴

ナデシコ

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月

国体：9月29日から10月9日 障スポ：10月13日から10月15日

国体・障スポ／一般

播種

移植

定植

開花

※摘心や切り戻して開花時期や花数は変わります。

※育成期間は一例となります。花の生育は栽培環境によって異なります。

特徴

花の色や形が豊富で、草丈も品種も様々なタイプがある。花壇や鉢物のほか切花にも利用されている。

秋の七草のひとつとしても知られており、たくさんの和歌が読まれるなど古くから日本で親しまれている。



原産地 — アジア、日本、ヨーロッパ

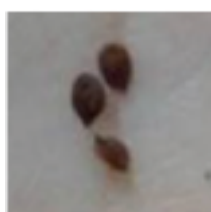
科名 — ナデシコ科

花言葉 — 純愛

播種

※ 発芽適温は20℃前後ですので、気温が高い場合は、なるべく涼しい場所で保管します。

覆土はうっすらと種が隠れる程度にします。



種子

移植

本葉が3～4枚になったらポットなどに丁寧に移します。

定植

適した土壌：有機物が多く水はけがよい土壌

本葉が7～8枚になってポットの底から根が見えるところになったら、植え付けします。花壇植えの場合、株間は25～30cm程度が目安です。

管理

栽培期間を通し日当たりと風通しの良い場所を好みます。乾燥気味を好み、水のやりすぎは根腐れの原因になるので土の表面がしっかり乾いてから水やりをします。株を弱らせないように、花がらはこまめに摘み取りましょう。



バラ



4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月	
		国体：9月29日から10月9日						障スポ：10月13日から10月15日					
国体・障スポ	※大苗の場合	パターン1		開花		剪定				開花			
	※ 植え替えは 11月～2月	パターン2		植え替え		剪定				開花			
一般		開花				剪定				開花			
※ 植え替えは 11月～2月													
※摘心や切り戻しで開花時期や花数は変わります。													
※育成期間は一例となります。花の生育は栽培環境によって異なります。													

特徴

美しい花容で花色、香りが優れており、古くから園芸栽培されていることから、多くの園芸品種が存在する。観賞用が大半を占めるが、香料として用いられたり、調味料やハーブティーなど食品でも広く用いられている。樹形によって木立ち性、半つる性、つる性の3タイプに大別される。生育は上級者向けである。

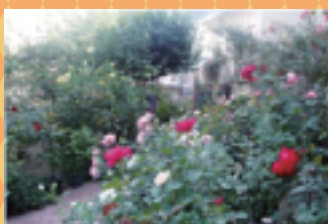


原産地 — アジア
中近東
科名 — バラ科
花言葉 — 愛

播種

※大苗の場合

大苗は休眠している11月～2月あたりが植え付け時期としてはおすすですが、3月以降に購入した大苗の場合、花が一通り咲いた後の6月に植え替えしましょう。鉢で育てる場合は最低でも10号鉢（直径約30センチ）前後のものを使用するとよいでしょう。また鉢は底の深いものを使用し、底には鉢底石を敷いて水はけを良くします。地植えする場合は日当たりと風通しの良い場所を選びます。肥料がバラの根に直接触れないように注意しましょう。初心者の方は大苗を鉢に入れて育てた鉢苗を購入するのがよいでしょう。



バラによる庭の景観形成

管理

水やりは表面の土が乾いたらたっぷりしましょう。特にバラは暑さに弱いので夏場の水切れには十分注意しましょう。咲き終わった花は随時早めに摘み取るようにしましょう。バラは切戻ししてから45日～60日で次の花が咲きますので、8月中旬を目安に剪定し、国体・障スポ開催時期の10月にたくさんの花を咲かせましょう。



ヒガンバナ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
国体・障スポ／一般	国体：9月29日から10月9日 障スポ：10月13日から10月15日						
1年目				植え付け		開花	
2年目以降						開花	
※摘心や切り戻しで開花時期や花数は変わります。 ※育成期間は一例となります。花の生育は栽培環境によって異なります。							

特徴

秋の彼岸の時期に咲くことが名前の由来になっており、曼珠沙華とも呼ばれる。

花の色は真っ赤なものが有名であるが、ヒガンバナの仲間には淡いピンクや白色の花をつける夏水仙をはじめ、改良された様々な色の品種がある。



植え付け

球根の底部が深さ10センチくらいになるように植えます。
球根同士は球根の大きさの2～3倍程度間隔を空けるようにします。
庭植えでも、鉢植えでも構いませんが、鉢植えする場合、
根が深い植物なので深い鉢やプランターを準備しましょう。
また植える場所は深く耕すようにしましょう。



種子

原産地 — 中国、日本
科名 — ヒガンバナ科
花言葉 — 情熱

管理

適した土壌：有機質に富み、水はけがよく保水性のある土壌
日当たりのよい環境で乾燥気味に育てましょう。
花壇や畑などでは水やりの必要はほとんどありませんが、
極端に乾燥する場所では適度に水やりが必要です。
また花の時期だけはあまり乾燥していると生育に影響するので適度に水やりをしましょう。



植え付けの様子（美浜町大藪区）

マリーゴールド

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月

国体：9月29日から10月9日 障スポ：10月13日から10月15日

国体・障スポ／一般

播種

移植

定植

開花

※摘心や切り戻しで開花時期や花数は変わります。

※育成期間は一例となります。花の生育は栽培環境によって異なります。

特徴

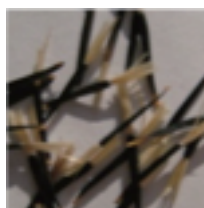
夏から秋にかけてオレンジ色や黄色などの暖色系の花を咲かせる。

小輪系で草丈の低いフレンチ種と大輪系のアフリカン種が有名であるがその他にもメキシコ系や交配種など多くの種類がある。

播種

マリーゴールドの種は大きいので播きやすいでしょう。覆土はうっすらと種が隠れる程度にします。発芽適温は20～25℃前後で、5月以降に播種するとよいでしょう。発芽率もよく、発芽日数も5日程度と比較的短いので扱いやすいでしょう。

種子



原産地 — メキシコ

科名 — キク科

花言葉 — 可憐な愛情
予言

移植

本葉2～4枚の時期を目安に、ポットなどに丁寧に移します。

定植

適した土壌：有機質に富み水はけがよい土壌

本葉6～7枚の時期を目安に、プランターや花壇に植え付けます。花壇に植える場合、株間は20～30cm程度が目安です。

管理

暑さに強く、日当たりと風通しの良い場所を好みます。多湿を嫌うので水やりは、土の表面が乾いたらたっぷり与えるようにします。本葉10枚程度を目安に新芽の部分を摘心すると、バランスのよい草姿となります。生育が旺盛なので、こまめに切り戻しを行い、繁茂しすぎないようにしましょう。過度の肥料の施し（特に窒素）は花つきが悪くなるので注意しましょう。

4株植え



ケイトウ

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月

国体：9月29日から10月9日 障スポ：10月13日から10月15日

国体・障スポ／一般

播種

移植

定植

開花

※摘心や切り戻しで開花時期や花数は変わります。

※育成期間は一例となります。花の生育は栽培環境によって異なります。

特徴

花の形状がニワトリのとさかに似ていることからケイトウと呼ばれ、大きくてボリュームがある。花色は赤やオレンジ、ピンクなど豊富で、鮮やかな花色で美しく花壇を彩る。トサカケイトウのほか羽毛状のウモウケイトウ、半球状に花をつけるクルメケイトウなど多くの種類がある。

播種

ケイトウの種は光を嫌いますが、小さいため覆土が厚すぎても発芽率が悪くなるので、覆土はうっすらと種が隠れる程度にします。発芽適温は25℃前後となります。



種子

原産地 — 熱帯アジア、
アフリカ
科名 — ヒユ科
花言葉 — 色あせぬ恋

移植

ケイトウは直根性なので移植を嫌います。移植する場合は子葉が展開したころ、根を切らないように丁寧に植えつけます。

定植

適した土壌：水はけがよい土壌
ポットの底から根が見えるようになったら、植え付けします。腐葉土やたい肥など土に混ぜ込んでおくとよいですが、肥料（特に窒素分）を与えすぎると葉や茎が繁殖し、かえって花つきが悪くなるので注意が必要です。株間は十分にとり、花壇植えの場合、株間は30cm程度が目安です。

管理

日当たりがよく風通しの良い場所を好みます。水やりは土の表面が乾いたらたっぷり与えましょう。日当たりが悪いと花が色褪せますので、よく日に当てましょう。



コスモス



4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月

国体：9月29日から10月9日 障スポ：10月13日から10月15日

国体・障スポ／一般

播種

除草などの管理
摘心・切り戻し

開花

※摘心や切り戻しで開花時期や花数は変わります。
※育成期間は一例となります。花の生育は栽培環境によって異なります。

特徴

日本の秋を代表する花で、サクラに似た花をつけることから、「秋桜」の和名がある。

近年では品種改良が進み、夏から開花する早咲き種も多く出回るようになった。一重のほかには八重や花弁が筒状になったものなど花形が多くある。



原産地 — メキシコ
科名 — キク科
花言葉 — 乙女の純潔

播種

コスモスは直根性で一本太い根が生えているタイプのため、植え替えに向いてません。そのため直接地植えやプランター鉢に植えましょう。発芽適温は20℃前後で発芽には水分が必要なため、降雨の前日に播種を行うとよいでしょう。発芽したら、込み合っている場所を間引きしましょう。



種子

管理

日当たりの良い場所を好みます。もともと乾燥地に適した植物なので、あまり水を与える必要はありません。特に雨水のかかるような庭植えの場合、真夏以外はほとんど水やりの必要はないでしょう。また土質は選びませんので、肥料はあまり必要ありません。草丈が高くなる場合、摘心と切戻しをおこないます。こまめに摘心し、脇芽を増やすと秋にたくさん花が咲きます。



江上農地向上活動組織（福井市）

コリウス

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
国体・障スポ			播種	移植	定植	観賞期	
一般			播種	移植			

国体：9月29日から10月9日 障スポ：10月13日から10月15日

※育成期間は一例となります。
花の生育は栽培環境によって異なります。

※葉が展開したら観賞用

特徴

葉を觀賞する草花で、葉や模様がパリエーションに富んでおり、赤、黄、紫、緑などが組み合わさったカラフルな葉が楽しめる。

葉色が豊富なので、コリウスだけの寄せ植え以外にも、花壇のアクセントなどでも用いることができる。



原産地 — 東南アジア
科名 — シソ科
花言葉 — 健康

播種

コリウスの種は非常に小さく、光を好む性質なので覆土はしません。
発芽適温は25℃前後で、気温が十分高くなってから種を播くようにしましょう。

種子



移植

本葉が3～4枚ほどになったらポットなどに丁寧に移します。

定植

適した土壌：水はけがよく保水性のある土壌
ポットの底から根が見えるようになったら、植え付けします。株間は十分にとり花壇植えの場合、株間は30cm程度が目安です。

管理

半日陰で、風通しの良い場所を好みます。
乾燥にとっても弱いので、水切れさせないよう注意が必要です。
表土が乾いたらたっぷりと水をあげます。特に真夏は水切れが起きやすいので朝夕としっかりあげます。苗の頃から日当たりで管理していると丈夫に育ちますが、強い直射日光に当たると葉がやけどをおこしますので注意しましょう。

ベゴニア・センパフローレンス

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月

国体：9月29日から10月9日 障スポ：10月13日から10月15日

国体・障スポ／一般

播種

移植

定植

開花

※摘心や切り戻して開花時期や花数は変わります。
※育成期間は一例となります。花の生育は栽培環境によって異なります。

特徴

四季咲き性で花期が大変長く、草丈も低い花である。株姿もきれいにまとまるので、花壇やコンテナ、寄せ植えなどで広く利用されている。

花色は白、ピンク、赤など色彩が豊富で咲き方は一重咲きと八重咲きがある。

原産地 — ブラジル、日本
科名 — ジュウカイドウ科
花言葉 — 親切

播種

ベゴニアの種は非常に小さく、光を好む性質なので覆土はしません。発芽適温は25℃前後で、気温が十分に高くなってから種を播くようにしましょう。



種子

移植

本葉3～4枚の時期を目安に、ポットなどに丁寧に移します。

定植

適した土壌：水はけがよく保水性のある土壌
ポットの底から根が見えるようになったら、植え付けします。
花壇植えの場合、株間は20～25cm程度が目安です。

管理

日当たりがよく風通しの良い場所を好みます。過湿を嫌いますので乾燥気味に管理し、水やりは土の表面が乾いたらたっぷり与えましょう。また葉の表面がぴかぴかと光沢を持ってくる頃合いも水やりの目安となります。真夏の強い日差しに弱いので注意しましょう。花つきを良くするため、定植後は月に一回程度、少量の固形肥料を与えましょう。

ペチュニア

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
国体・障スポ	国体：9月29日から10月9日 障スポ：10月13日から10月15日						
			播種	移植	定植	開花	
一般			播種	移植	定植	開花	

※摘心や切り戻しで開花時期や花数は変わります。
※育成期間は一例となります。
花の生育は栽培環境によって異なります。

特徴

赤、ピンク、紫、白、黄など花色が豊富で初夏から秋まで、アサガオのようなカラフルな花を咲かせる。
一重咲きのほかに、八重咲きもあり、小さい花をたくさん咲かすタイプと大きな花を咲かせるタイプがある。

原産地 — 南アメリカ
科名 — ナス科
花言葉 — 心のやすらぎ

播種

ペチュニアの種は非常に小さく、光を好む性質なので覆土はしません。発芽適温は25℃前後で、気温が十分高くなってから種を播くようにしましょう。

移植

本葉5～6枚の時期を目安に、ポットなどに丁寧に移します。



種子

定植

適した土壌：有機物に富み水はけがよい土壌
本葉8枚程度を目安に、プランターや花壇に植え付けます。
花壇植えの場合、株間は30～40cm程度が目安です。

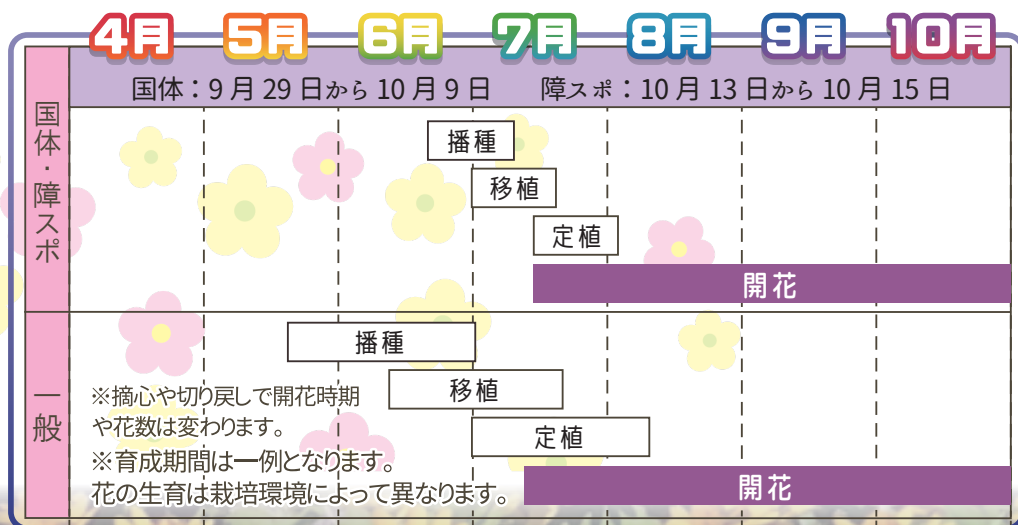
管理

日当たりと風通しの良い場所を好みます。日照不足になると花つきが悪くなりますので注意が必要です。
多湿に弱いので、乾燥気味に管理し土の表面が乾いたら水をたっぷり与えます。また花に水がかかると痛みますので注意しましょう。ペチュニアは繰り返し花をつけるので、開花中は肥料を切らないようにしましょう。
また、こまめに切り戻し、花がら摘みを行い、繁茂しすぎないようにすることも大切です。



大東中学校正面玄関（福井市）

メランポジューム



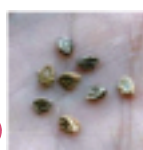
特徴

土質を選ばず、日本の高温多湿に強い丈夫な花。明るい小輪の黄色い花を無数に咲かせ、鮮やかな緑の葉とのコントラストが美しい。新しい花が古い花を隠しながら次々咲くので花がらが目立ちにくい。(セルフクリーニング)

播種

発芽適温は20～30℃前後で、発芽するまでは軽く覆土するなどし、乾燥しないようにします。

種子



移植

本葉が4～6枚ほどになったらポットなど丁寧に移します。

定植

適した土壌：水はけがよく保水性のある土壌

本葉が6～8枚程度になったら、植え付けします。また寒さに弱いので十分に暖かくなってきたころに植えたほうがよいでしょう。花壇植えの場合、株間は30～40cm程度が目安です。

原産地 — メキシコ

科名 — キク科

花言葉 — 元気

管理

日当たりの良い場所を好みます。

小花を次々と咲かせるうえで肥料は大切ですが、過度に肥料を施しすぎると、生育不良を起こすので注意しましょう。真夏の高温多湿に強いですが、逆に乾燥が続くと葉先が枯れこむことがありますので水切れに注意が必要です。

ジニア（百日草）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
国体・障スポ				播種	移植	定植	開花
一般			播種	移植	定植	開花	

国体：9月29日から10月9日 障スポ：10月13日から10月15日

※摘心や切り戻しで開花時期や花数は変わります。
※育成期間は一例となります。
花の生育は栽培環境によって異なります。

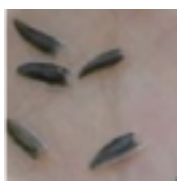
特徴

初夏から晩秋まで咲き、開花期が長いことから、和名で百日草とも呼ばれる。直射日光にも強く、暑い夏でも強い数少ない植物で、初心者でも育てやすい。古くから親しまれている大輪系や人気のある小輪系がある。



原産地 — メキシコ
科名 — キク科
花言葉 — しあわせ

播種



種子

ジニアの種は草花の種としては比較的大きくまきやすいでしょう。また、光を嫌うので、種が隠れる程度に覆土します。発芽適温は25℃前後で発芽率は比較的高く、発芽したらよく日に当てましょう。

移植

本葉が2～4枚ほどになったら1本ずつ丁寧にポットなどに植え替えます。

定植

適した土壌：有機物に富み、水はけがよい土壌

ポットの底から根が見えるようになったら、植え付けします。ジニアは開花・生育期間が長いので、肥料が不足しないように定植後は月に一度ほど追肥を与えます。花壇植えの場合、株間は30cm程度が目安です。

管理

暑さに強く、日当たりと風通しの良い場所を好みます。乾燥気味に管理し、水やりは土の表面が乾いたら与えましょう。しかし夏場においては蒸発が激しく、水切れを起こしやすいので朝と夕方にしつかりと水を与えましょう。



小輪系

センニチコウ

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月

国体：9月29日から10月9日 障スポ：10月13日から10月15日

国体・障スポ／一般

播種

移植

定植

開花

※摘心や切り戻して開花時期や花数は変わります。
※育成期間は一例となります。花の生育は栽培環境によって異なります。

特徴

乾燥させても色あせず、長持ちするので「千日紅」の名前の由来にもなっており、ドライフラワーにもよく利用される。

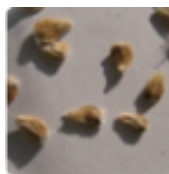
花びらをもたず、苞葉と呼ばれる花の付け根につく葉っぱが紫、赤、ピンクなどに色づいて観賞される。



原産地 — 熱帯アメリカ
科名 — ヒユ科
花言葉 — 不朽、色褪せぬ愛

播種

発芽適温は25℃前後ですので、気温が十分高くなってから種を播くようにしましょう。覆土はうっすらと種が隠れる程度にします。種に綿毛がついている場合は、水を吸いにくくなるので砂もみ等を行い、しっかり取り除くようにしましょう。



種子

移植

本葉2～4枚の時期を目安に、ポットなどに丁寧に移します。

定植

適した土壌：水はけがよい土壌

本葉4～7枚の時期を目安に、プランターや花壇に植え付けます。花壇植えの場合、株間は20～30cm程度が目安です。

管理

暑さや乾燥に強く、日当たりと水はけの良い場所を好みます。多湿が苦手ですので乾燥気味に管理し、土の表面が乾いたら水をたっぷり与えます。生育が旺盛なので、こまめに切り戻しを行い、繁茂しすぎないようにしましょう。また、枯れた葉や花がらもこまめに摘み取りましょう。